坂総合病院　QI ニュース　〈第 10 号〉2014 年 3 月

発行責任：坂総合病院 QI 委員会

坂病院医療指標ホームページ：http://www.m-kousei.com/saka/52qi/

コラム

～薬剤管理指導件数～

坂総合病院 QI 委員　薬局長　山内　昂

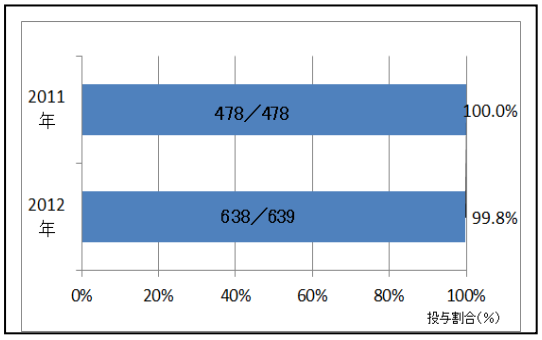
薬剤指導件数は薬剤師の業務の中で一番数字化しやすく、そのため目標としやすい指標です。

自分が薬局長になり、最初に取り組んだのが指導件数の増加でした。職責会議で件数を増やすためにはどうすればいいか話し合い、出された意見を職場会議で議論しました。

話し合いの結果、出された意見を「今からでも出来ること」、「将来、薬剤師数が増えたらできること」に分け取り組むことにしました。「今からでも出来ること」には、初回服薬指導時に新人でも行きやすいようにワードパレットを作成することや、１人１日５件、全体で５００件/月の目標を再確認。さらに、月末に病棟担当者に担当病棟の指導件数を自分たちで数えてもらい担当者に指導件数を意識してもらうといった取り組みをしてきました。

その結果、以前までは、300～400 件/月くらいでしたが、５月、６月から徐々に増加し７月には目標の 500 件を超え 594 件に到達。その後も 500 件以上を維持できています。今後は 500 件維持もしくはそれ以上を目指していきたいと思っています。

指標紹介　予定手術開始前 1 時間以内の予防的抗生剤投与割合



手術での最大の敵のひとつが細菌です。しっかり消毒をしたつもりでも目に見えないため細心の注意が必要です。手術をしたところの細菌感染を予防するために、手術の前に抗生物質を点滴することが推奨されています。この世界的に推奨されている感染予防の手順をどの程度遵守できているかをみるのがこの指標になります。手術は外科医以外にも多くのスタッフによって営まれます。手術に関わる部門がシステムとしていかに有効に機能しているかも感じ取れる指標となっています。

全日本民医連のデータを見ると、中央値は 90%を超えており、多くの病院で意識的とりくまれていることが分かります。当院でも 2011 年は 100%とほぼ完璧に取り組まれていることがわかります。手術を行うチーム内で手順の取り決めがしっかり機能していることがうかがわれます。むしろ行わなかった例は薬へのアレルギーなど特別な理由があった可能性があります。一律に機械的に取り組むことは、一部の患者さんに害を及ぼすかもしれません。個々の患者さんの情報を把握することも手順として非常に重要であると考えられます。今後も、この値が高い値で推移することが期待されます。

QI 委員会事務局

シリーズ“統計のはなし”No.10

前回までの、「平均値と中央値」「標準偏差と四分位数」についてアプローチを変えてデータの見方を補足していきます。

データを見極めるための４種の神器

データを集めるほどデータの一覧を見ただけではその特徴が分からなくなります。ここでは集めたデータを見通す４つ視点を紹介してきます。

1．標本数

標本数とは、集めたデータの数のことです。すべてのデータ（母集団）を集めることは困難なので、抽出した「標本」としてデータを扱います（厳密には「無作為抽出」が重要ですが、医療現場では手に入れたデータで検討する場面のほうが多いでしょうか）。一般的に、標本数が多いほうが一般化するには有利です。5 名のデータと 100 名のデータで諸例を検討するなら後者のほうがより一般化できそうですね。

2．形

得られたデータがどのような検討してみましょう。例えば身長のデータでは 5 センチ刻みなどで集計して、ヒストグラムを書いてみましょう。特定の値に集中した「山型」になっているのか、山がいくつも現れるのか、大きい（小さい）値に集中しているのか？グラフにすることで確認できます。

3．場所（位置）

「形」を眺めたとき、山ができる位置はどこでしょうか？いくつも山ができる場合、何か別の「要因」がある可能性があります。例えば、ある検査値に山が複数できた場合、傷病・体重、体重....などが原因で複数の山ができているかもしれません。また、偏った場所に山ができる場合、山の「裾野」を生み出す要因があるかもしれません。形と位置をみることで原因を考えるきっかけになります。

ところで、位置を知る値として「平均」や「中央値」があります。複数の山がある場合、平均値が全く関係ない位置を示す場合があります．それはまた別の回のコラムで。

4．広がり

広がりはデータの山の幅を示すものです。ちらばり、つまり「標準偏差」や「四分位数」が広がりを示す値です。散らばり具合が大きいほど、平均値や中央値だけではそのデータの特徴を表現しきれないことを意味します。

今回のネタ本は「この世で一番面白い統計学」（http://goo.gl/3heT82）という本です。

マンガなので入門書を読む前の導入にはちょうど良いと思います。

医療情報企画センター　SE　　佐藤洋之

次号（第 11 号・4 月発行予定）のご案内

次回は引き続き指標紹介「悪性腫瘍手術における術中迅速病理標本作成割合」、シリーズ“統計のはなし”No.11 を予定しています。